



(都) 沼津南一色線の概要について

<資料目次>

1. 路線の位置付け	1
2. 広域交通ネットワークの観点からの必要性	2
3. 路線の現状	3
4. 街路事業の現状	5
5. 整備案Hについて	6

1.路線の位置付け

■(都)沼津南一色線は、以下の役割が期待される重要な路線で、幅員25m(4車線)の幹線道路です。

路線の位置付け：①国道1号(東京～大阪)と国道246号(東京～沼津)を結ぶ広域道路

②沼津市中心市街地と東名高速道路(沼津IC)・新東名高速道路(長泉沼津IC)を結ぶアクセス道路

③長泉町や裾野市など近隣市町との都市間交通を担う道路



2.広域交通ネットワークの観点からの必要性

■ 交通ネットワーク機能が不十分であることから、交通が集中する江原公園交差点、共栄町交差点を中心に国道1号、（都）三枚橋岡宮線等において、走行速度が低下し慢性的な渋滞の要因となっています。



① 国道1号



② (都)三枚橋岡宮線



③ (県)沼津 インター線(沼津IC南交差点)



3.路線の現状①

■国道1号などの幹線道路の渋滞により抜け道となっている（主）三島富士線などに通過交通が流入し、朝夕の慢性的な渋滞で地域住民の日常生活に支障をきたしています。また、交通の集中や錯綜により人身事故が多発しています。



① 国道1号江原公園交差点付近



② (主)三島富士線から国道1号への合流部

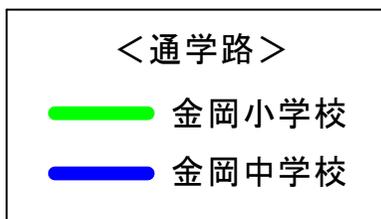
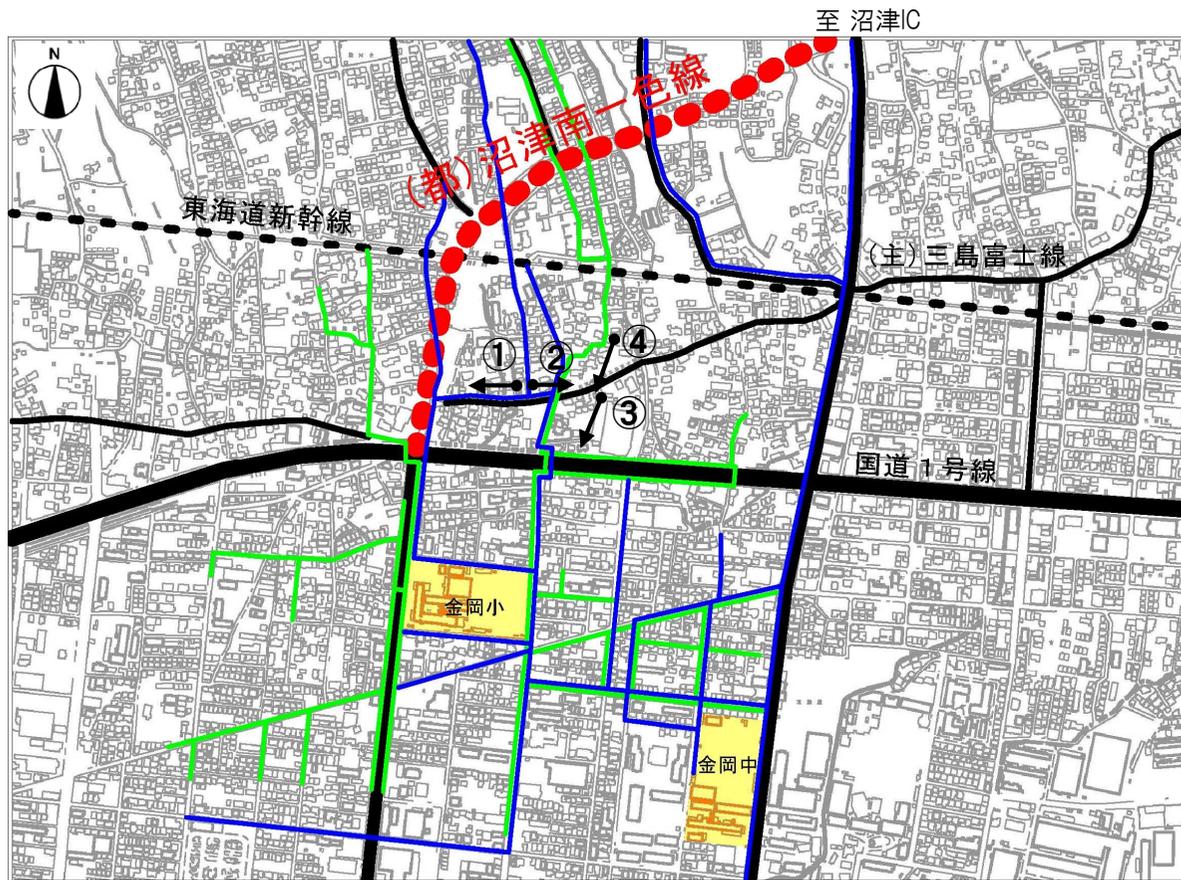


③ 抜け道となっている（主）三島富士線

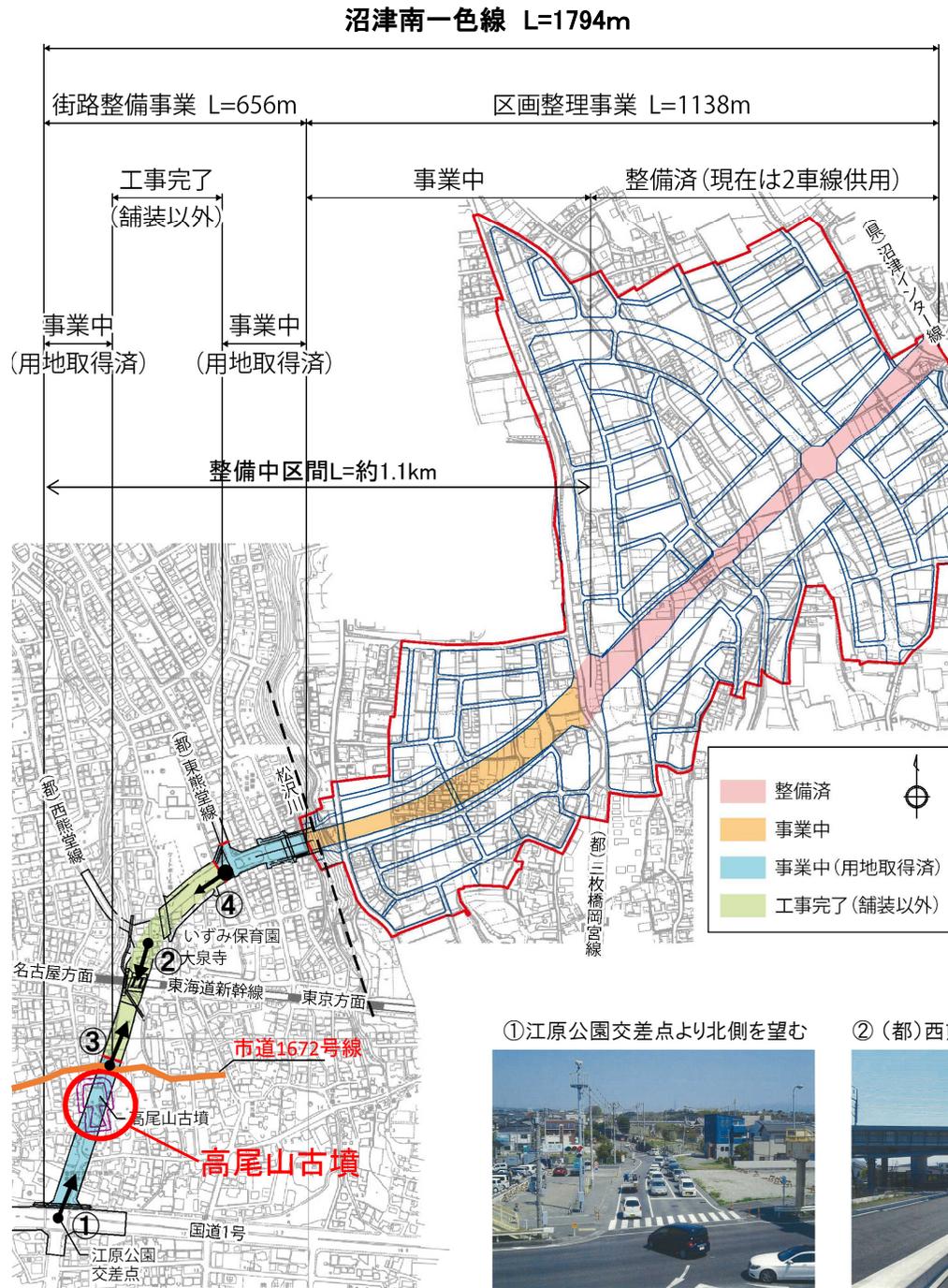


3.路線の現状②

■事業区間の周辺に立地する金岡小学校や金岡中学校への通学路に通過交通が流入し、児童・生徒と車両が輻輳しています。



4.街路事業の現状



○街路事業の進捗状況

●事業の経緯

- ・昭和36年度に都市計画決定（県決定）されています。
- ・平成8年度に事業認可され、街路事業に着手。
- ・平成17年度工事に着手し、東海道新幹線を横断する区間の工事が概ね完了しています。
- ・平成30年3月時点における事業の進捗状況は、用地買収99.8%、また、東海道新幹線以東の未整備区間において、現在、工事を実施しています。
- ・事業完了予定は平成30年代後半を予定しています。

●関連市道の整備について

- ・沼津南一色線の整備にあわせて、市道1672号線の整備を進めており、既に用地買収が完了しております。

①江原公園交差点より北側を望む



②(都)西熊堂線より南側を望む



③市道1672号線より北側を望む



④(都)東熊堂線より西側を望む

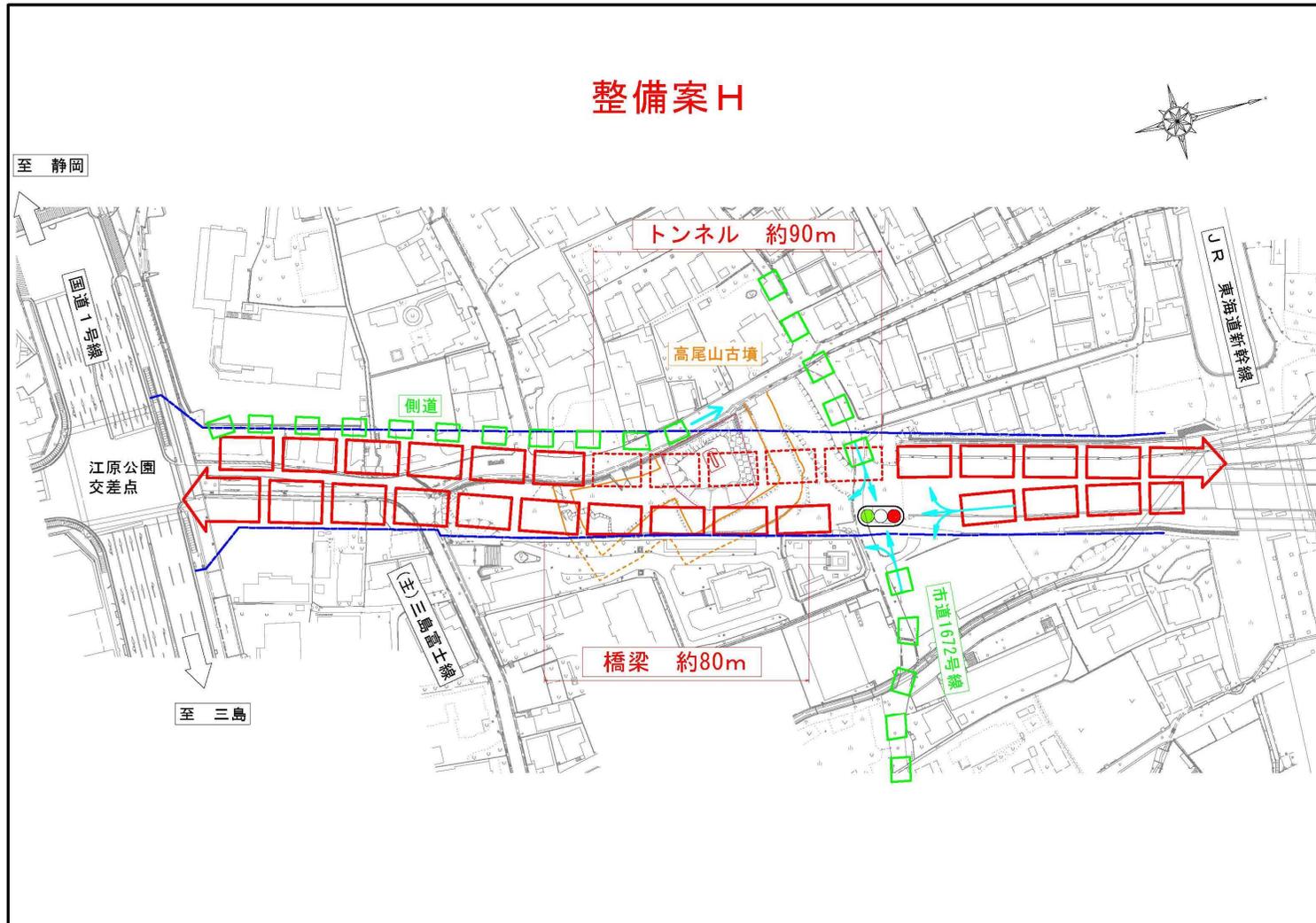


5.整備案Hについて

■整備案Hの選定理由

都市計画道路沼津南一色線は、道路構造基準における都市部の一般道路で、最も規格が高く交通量も多い道路のため、安全性や円滑性の優れた構造が求められます。加えて高尾山古墳の重要性から、現位置での古墳の保存、利活用といった視点も必要になります。このようなことから、道路及び文化財保護の関係者と協議・相談を行いながら検討した結果、通行車両の安全性や地元の東西道路である市道1672号線の機能確保といった観点から整備案Hを選定しました。

整備案Hは、橋梁形式とトンネル形式を採用することで、古墳の大部分が現位置保存され、また橋梁下のスペースや隣接市有地と一体となった古墳の利活用も考えられるため、最適案と判断し平成29年12月に公表しました。



■（都）沼津南一色線の整備方針

沼津の中心市街地への玄関口に位置し、極めて価値の高い高尾山古墳は、都市計画道路沼津南一色線と一体となって、沼津市にとってシンボル性の高い施設となる要素を兼ね備えています。そのため、具体的な整備にあたっては、道路と古墳を含む周辺までを一体的な空間として設計し、質の高い整備を行うことで、良好な景観の形成を目指します。